

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	870301124		
法人名	池田観光開発株式会社		
事業所名	グループホーム 鶴沼の里2		
所在地	土浦市神立東1丁目16-33 (電話) 029-830-0220		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年7月18日	評価確定日	平成19年12月21日

【情報提供票より】 (平成19年6月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年7月18日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤	9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	共益費20,000 円
敷金	有 (250,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

### (4) 利用者の概要 (6月20日現在)

利用者人数	8 名	男性	4 名	女性	4 名
要介護1	1	要介護2	3		
要介護3	2	要介護4	0		
要介護5	1	要支援2	1		
年齢	平均 80 歳	最低	72 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	神立病院 筑波病院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの理念である、「人権の尊重、家族以上のケアに励む事、地域の一人として暮す事」を目標に掲げ、職員は日々ケアに励んでいる。  
職員は利用者の立場に立ち、行動を制限することなく、時には手引き誘導しながら、納得するまで寄り添う介護をしている。  
毎日の日課であるラジオ体操や誤嚥防止を目的とした食前の口腔リハビリの実施等で利用者の機能低下予防に努めている。  
1つのユニットが家族という和やかな雰囲気が漂っているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>管理者は交代して日が浅いため、全ての課題について改善するには至っていないが、玄関の出入りを自由にできるようにするなど、改善に向けて取り組んでいる。 今後は、運営推進会議を通して、地域や行政との連携、介護計画の作成に関する課題などについて、職員とともに優先順位を決めて課題の解決に取り組むことが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>管理者は交代して日が浅いが、評価の意義を十分に理解し、職員とともに共有している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは決まっているが、開催するまでには至っていないので、利用者に対するホームのサービス、外部評価などについて、会議のなかでホームのあり方や認知症を理解してもらう場とするなど、貴重な会議として捉え早急に開催することを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>苦情等の相談窓口や担当者を設置するとともに、玄関入り口に苦情箱を設置している。 また、家族の面会時に悩みや苦情の相談を受けているが、利用について周知を図る取り組みが充分ではないので、利用に関する周知を図るとともに、ホームへの希望や要望などについて、無記名によるアンケートを実施し、意見等を求め、今後のケアに活かす事を期待する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>地域の小学校の運動会に参加したり、ボランティアを積極的に受け入れているが、利用者が近隣の方々と交流を図るまでには至っていないので、グループホームが近隣住民の理解を得るためにも、ホームからの積極的な声掛けや利用者の描いた絵、手芸品、習字などの展示品を地域の人々に観てもらおうなど、ホームを開放する働きかけが望まれる。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念に「社会交流、地域の一員として暮らすこと」を目標に掲げ、利用者が安心して地域で暮らすことができるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関、事務所に掲示するとともに、月1回の全体会議で復唱するなどにより、理念を共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校の運動会に参加したり、ボランティアを積極的に受け入れているが、利用者が近隣の方々と交流を図るまでには至っていない。	○	グループホームが近隣住民の理解を得るためにも、ホームからの積極的な声掛けや利用者の描いた絵、手芸品、習字などの展示品を地域の人々に観てもらおうなど、ホームを開放する働きかけが望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は交代して日が浅いが、評価の意義を十分に理解し、職員と共有するとともに、改善に向けて取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは決まっているが、開催するまでには至っていない。	○	利用者に対するホームのサービス、外部評価などについて、会議のなかでホームのあり方や認知症を理解してもらう場とするなど、貴重な会議として捉え早急に開催することを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの空きベットの状況及びパンフレットを置くなどの取り組みは行っているが、連携を図るまでには至っていない。	○	運営推進会議にホームの現状や課題等について情報交換を行うなど、市の担当者とのコミュニケーションを図る機会を設ける取り組みが望まれる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、家族宛に金銭預かり金の収支決算書と領収書を添付するとともに、利用者の身体状況や暮らしぶり、エピソードを記入し郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の相談窓口や担当者を設置するとともに、玄関入り口に苦情箱を設置している。また、家族の面会時に悩みや苦情の相談を受けているが、利用について周知を図る取り組みが充分ではない。	○	利用に関する周知を図るとともに、ホームへの希望や要望などについて、無記名によるアンケートを実施し、意見等を求め今後のケアに活かす事を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の離職を回避するため、職員とコミュニケーションを図る機会を設けるとともに、修復が困難な場合は法人内の異動をしている。また、職員の離職による利用者のダメージを最小限に止めるため、不安の解消に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が資格を有しているが、就労後の研修等を受講するまでには至っていない。	○	ホームのサービス向上を図るため、職員の経験年数や資格等に応じた研修を受講できるように体制づくりに取り組むとともに、困難な場合でも内部研修を実施するなど、研修する機会を確保することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流する機会を設けるまでには至っていない。	○	近隣のグループホームに働きかけ相互訪問するなどにより、交流する機会を設け、問題や課題の対応方法や勉強会の開催など、質の向上に向けた働きかけを期待する。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他県や遠方からの利用者が多く、管理者は不安を最小限に止め、信頼関係の構築に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでは「人生の先輩として尊敬の念をもち、貴方の言葉に耳を傾け、その生き方を支持をし、在りのままの貴方を愛します」を記した額を事務所に掲示しており、職員は実践できるよう務めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴に沿い、利用者ができる事を一緒に取り組んでいる。 また、意思の疎通が困難であっても、声かけをして根気良く寄り添うケアをしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用時に本人や家族の意見、問題点を聞き希望に沿った支援ができるよう介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の現状に即した介護計画を見直すまでには至っていない。	○	介護計画の期間満了時や認定更新時などに、利用者の状態や計画の達成状況について把握し、情報に基づいた介護計画を見直しすることが望まれる。 また、利用者の状態に変化が見られたときなど、随時の見直しを行うことが望まれる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月に1回かかりつけ医の診察を受けるため、職員が通院支援を行っている。 また、看護師の資格を有する職員を採用し、緊急時の対応ができるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回かかりつけ医の通院支援を行うとともに、歩行が困難な利用者には往診を依頼している。 また、利用者が夜間等に病状が急変したときにも、時間を問わず診療を受けられる病院を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の急変時に医療的処置が必要な時や終末期を迎える利用者には、担当医、家族、職員と話し合い、全員で対応方針を共有している。	○	今後は重度化や終末期の対応方針を明確にし、ホームとしての方針を重要事項説明書に明示することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書に個人情報の秘密保持を明示するとともに、「個人情報提供同意書」で同意を得ている。 職員はトイレ誘導の際にさりげなく声を掛けるなど、配慮しているが、浴室のプライバシーに関する配慮が充分ではない。	○	洗面所と脱衣場が同じ部屋となっており、入浴時の脱衣など、プライバシー保護のため、カーテンを設置するなどにより、利用者の羞恥心に配慮するすることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に希望に沿った支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を得意とする利用者と食事の盛り付けをしたり、食卓を拭いたり、利用者が生き生きとできるような場面づくりをしている。 また、共有スペースにBGMを流し、安定した食事ができるような雰囲気づくりをするとともに、食事も笑い声が聞こえ和気あいあいとしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は隔日の午後3～6時となっているが、希望によって毎日入浴することも可能であり、入浴を拒否する利用者には、足浴や陰部洗浄を実施している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、できる事を取り組めるよう支援している。 習字やぬり絵、絵を描くための道具はリビングの分かりやすい場所に置き、畑仕事も職員と一緒にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回の買い物や天気の良い日は車を避けた近くの農道、ドライブを兼ねて公園を散策している。 また、利用者の希望により、近くの観光地や笠間稲荷の参拝、レストランでの外食などの外出支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵を掛けることの弊害を理解している。 2箇所ある玄関はオートロック式になっているが、1箇所から利用者が自由に入出入りしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署による避難訓練を実施している。 災害時に適切に連絡できるよう連絡マニュアルを事務所内に大きく掲示している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	近くの農家で無農薬で栽培している野菜等を食材に使用した、バランスの良い食事を提供しているが、利用者の摂取カロリー等を把握するまでには至っていない。	○	保健所の栄養士等にカロリー計算などの栄養指導を受けることを期待する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は季節の花で飾り、テレビの脇には座り心地良いソファを設置し、また、利用者の描いた絵画を随所に掲示するなど、居心地よく過ごすことができるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みの家具や位牌を置くなど終の住み家と捉えている方もいる。 寝具等について、ホームではベットをレンタルにより、提供しているため、利用者一人ひとりに応じた配慮が充分ではない。	○	寝具等の利用について、ホームで準備したベットをレンタルするばかりでなく、利用者が使い慣れた寝具を利用することを選択できるような取り組みを期待する。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。